

河内長野市第 6 次総合計画 基本構想（案）

千年都市と、みんなの未来。

河内長野では、昭和の後期にいくつもの団地が開発され、自然ゆたかなこの地に憧れのマイホームを求めて、たくさんの世帯が引っ越してきました。30年あまりで人口が3倍になるという、日本でも有数の人口増加都市として知られた時期でもありました。

時が経ち、河内長野で育った子どもたちが大人になってこの場所を離れ、現在では人口減少や少子高齢化が進んでいることから、「まちの未来はどうなるのだろう」と心配する声も聞かれます。

けれど、河内長野は今、大きな転換点に立っています。

この冊子は、そんな河内長野のこれからを、みんなで考え、描いていくためにつくられました。市民のみなさんの声をもとに、どんな未来をつくりたいのか、何を大切にしたいのかを一つひとつ言葉にして、この一冊にまとめています。

前半では、まちの今を知ることができるように「あれは何?」「どうして?」という素朴な疑問に答えながら、河内長野というまちの魅力を見つめ直します。後半では、まちの未来に向けて「どんなまちになっていくのか」「どんな暮らしができるのか」と想像を広げながら、みんなの想いをカタチにしました。

この冊子を手にとったみなさんが、未来にワクワクしながら、「河内長野がこんなふうになったらいいな」「河内長野でこんなことをやってみたいな」と想いを膨らませるきっかけになればうれしく思います。

それでは一緒に、河内長野の未来をのぞいてみましょう。

Q.
河内長野って、
今どうなってるの？



A.
ターニングポイント

転出と転入の差がわずかとなるまでに回復。
特に0～14才の転入は、数年連続で転出を上回り、
子育て世帯から選ばれるまちに。

#ターニングポイント #再生フェーズ

Q.
どうして、若い世帯が
引っ越してきているの？



A.
空き家の循環

大阪府内最小だった空き家率に変化のサイン。
※町村を除く。
長く住み続けるまちから、住み継ぐまちへ。

#空家率の変化

Q.
大阪のなかでも、
河内長野が
いちばん強いのは？



A.
地盤

「強い地盤」ランキング、ダントツの最高スコア。
大阪府内で1番地盤が強い河内長野。

地盤が固い

Q.
河内長野は、
安心して住めるまちなの？



A.
防犯も、大阪一

犯罪発生率、大阪府内、最小。 ※町村を除く。
防災も、防犯も、安心のまち。

犯罪発生率

Q.
窓をあけると、
近くに見えるのは？



A.
みどり

自然が身近にある暮らし。
緑視率が高く、森林面積も大阪府内1位。 ※町村を除く。

森林面積67%

Q.
川を流れてるのは？



A.
きれいな水

大阪府内で唯一、全域水質AAの石見川をはじめ、
ムササビやサンショウウオも暮らす、美しい自然。

水質AA # 生物多様性

Q.
人が集まっている、
あの場所は？



A.
道の駅

人気ランキング大阪府内1位。
道の駅 奥河内くろまろの郷、絶好調の発進。

#人気ランキング

Q.
地域の自然や暮らしを
守っているのは？



A.
まちのみんな

環境への意識も高い、河内長野のみんな。
まちのゆたかさにつながる、一人ひとりの営み。

#リサイクル率

Q.
新しく暮らしはじめた人も、
馴染みやすいのはなぜ？



A.
心地よい つながり

新しい人にひらかれた河内長野。
伝統も、新しい挑戦も、大事にできるまち。

#世代を超えたつながり

Q.
河内長野に
たくさんの方が暮らし始めて、
何年くらい経つ？ →

A.
千年

「中世に出逢えるまち」として日本遺産にも認定。
文化遺産に息づく、たくさんの人々の営み。

#千年

Q.
河内長野で千年、
続いてきたものは？ →

A.
ふだんの暮らし

文化財だけでなく、この地で連綿と続いてきた
「暮らし」そのものが、まちの資産。

#ふだんの暮らし

ふだんを生きる、じぶんが生きる。

知るほど暮らすほど「好き。」が深まる千年都市。

10年後、私たちは
どんな「ふだん」を生活しているのだろう。

まちが元気、みんなも元気。

深呼吸したくなるゆたかな自然、美しく整備された街並み、充実した子育て環境、教育や福祉、活気ある産業や観光、農業に林業、そして、人と人の心地よいつながり。10年後の河内長野は、もっと美しく、もっといきいきしたまちに。みんなの「ふだん」も元気にあふれています。

ホタルも、子どもたちも、光ってる。

河内長野には、子どもたちの成長をゆたかに彩る環境があります。森に生きる野鳥や昆虫たちの観察、木工教室、農業体験、川遊び、たくさんある公園でかけっこ、子どもたちが顔を輝かせながらホタルを見つめる初夏の夕べ。河内長野の宝は子どもと自然。いっしょにすくすく育っています。

揺るがない安全と安心感。

10年後の河内長野は、今よりもっと安全で、もっと大きな安心感に包まれて暮らせるまちに。それを支えているのは、大阪一を誇る地盤の固さと治安の良さだけではありません。土砂崩れなどの災害への対策や、医療・救急・消防・道路・水道などの基盤づくりが進み、安全・安心と同居して暮らせる健康的な毎日が、みんなの誇りになっています。

人のつながりも、大きな安心に。

地域の人たちも、河内長野の安全・安心を支えるのに、大事な役目を担っています。学校に通う子どもたちのための見守り活動や、防災・防犯活動など、一人ひとりの目配り・心配りが、みんなの安心を育んでいます。人と人とのつながりが広がり、深まることで、安心はもっと、大きなものになっています。

暮らしの中に、「できる。」がふえる。

まちの情報をみんなで伝え合ったり、忙しくて市役所に行く時間がなくても電子手続きで窓口サービスを利用できたり、病院に通えなくても遠隔で診療を受けられたり。新しいテクノロジーと、人と人の支え合いによって、これまで諦めていたことや難しかったことが、どんどん「できる。」に変わっています。

好きなときに、好きなところへ。

自動運転などのテクノロジーや、人と人の助け合いを活かして、マイカーがなくても、免許を返納しても、自分の行きたいところへ出かけることができます。新しい地域モビリティやバス・鉄道、ご近所さんとの乗り合いを組み合わせて、いろんな移動が実現。移動中に生まれる人と人の“ふれあい”も、楽しみのひとつに。

「じぶん」が生きるまちって、
どんなまちだろう。

みんなが、主役。みんなが、ファン。

年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、一人ひとりの個性が活かされて、みんなが好きなこと、得意なことを楽しめるまち。そして、なりたい自分に近づけるまち。いろいろな人がいて、誰もがどこかに「主役」になれる場所を持っていて、それぞれが誰かの「ファン」でもあって、お互いに応援し合っています。

支えて、支えられて、活かし合って。

誰かがいつも「支えられる側」になるのではなくて、自分の長所や特技・経験を活かして、誰かを「支える側」にもなれるまち。お互いに気兼ねなく頼みごとができたり、周りの大人たちに支えられて成長した子どもが、自分も誰かを支える側になったり、支え合いの循環が広がっています。

あたらしい一歩、踏み出し放題。

何才になっても、いつでも新しいことにチャレンジできて「このまちでよかった。」と思える場所。新しい一歩を踏み出すとき、「このまちがいい。」と思える場所。周りのみんなも、その一歩を応援してくれるから、やりたいことを次々と実現させることができます。

地域がまるごと、学校。

学校でたくさんのことを学べて、学校の外にも学びがいっぱいあるまち。河内長野の子どもたちは、地域でのさまざまな経験を通して、学力とともにゆたかな心や健やかな体を育てています。知・徳・体の調和がとれた「生きる力」をそなえた子どもたちが、社会で活躍することがまちの希望になっています。

学びを、誰かの喜びに。

いくつになっても、多様な学びの場が身近にあるまち。そして、学んだことを自分の中だけに留めるのではなくて、知識や技術を、人のため、まちのために活かすことで、誰かの喜びも、人の役に立てる自分自身の喜びも生まれています。ゆたかな「学び」と「喜び」の循環を、河内長野から。

住（じゅう）を、もっと自由に。

戸建てや団地、マンションでの暮らしも、古民家の活用も、いろいろな住み方、暮らし方を自由に選択できるまち。たとえば、平日はニュータウンで生活し、週末は集落の田畑に出かけたり、空き家をリノベーションして仕事の拠点にしたり、多様な地域の魅力を活かして暮らしの楽しみ方が広がっています。

これから、どんな「好き。」を
深めていけるだろう。

まちの顔を、笑顔でいっぱい。

“まちの顔”になる場所がいくつもあって、たくさんの笑顔があふれる場所に。みんなの手で景観を美しくしたり、おいしいお店や楽しいスポットができたり、商店街の新しい活用法にみんなでチャレンジしたり。地元の人、観光客の人たちも、いろんな所でいろんな「好き。」との出会いが生まれています。

サクセスフルな、サステナブル。

自然を守る活動がもっと盛んになり、大切な資源が循環し続けるまちに。自然だけでなく、道路や公園などの社会基盤も、自治会活動などのコミュニティも、農業や地場産業も、市役所の安定した運営も、みんなの力で安心して暮らし続けられる環境が整い、持続可能なまちづくりのモデルケースになっています。

“ここにしかない”時間を求めて。

都心から30分の場所でありながら、自然や文化・歴史を感じられるまち、河内長野。自然と親しむアウトドア体験、ながく大切に守り継がれてきた神社仏閣。ここにしかない時間がゆっくりと流れていて、国内外から多くの人を惹きつける魅力になっています。慌ただしい日々の中で失った時間を取り戻し、ゆたかな時間を蓄えていく。そんな時間の楽しみ方が、ここにはあります。

地産地消で、日本一の給食カレーを。

恵まれた自然と農業の担い手たちの力を掛け合わせて、地産地消が進み、河内長野産のおいしい食材が、まちの食卓を彩っています。学校の給食でも地元で採れた野菜をつかった“日本一おいしい給食カレー”が話題になるくらい、農業と食育が活発になり、みんなの健康を支えています。

“推し”と出会えて、育てるうれしさ。

地域に息づく歴史や文化財、お祭り、よく行くお店や公園、河内長野を拠点にするスポーツチームやアーティスト、企業やボランティア団体……、一人ひとりが自分の“推し”と出会えて、ただ遠くから見守るだけではなく近くで応援できるような、ワクワクするつながりがまちにあふれています。

「好き。」が集まれば、すごい力に。

河内長野がみんなの「好き。」であふれたまちになって、みんなで見つけて持ち寄ったいくつもの魅力が「まちのブランド」になり、広く全国へと伝わっていく。みんなで愛着と誇りを持って、このまちでの暮らしを楽しむことが、そのまま、まちづくりにも活かされていく。そんな未来が、始まろうとしています。

一人ひとりの「好き。」が、
つぎの十年、つぎの千年をつくっていく。

河内長野は今、とても大きなターニングポイントを迎えています。若い世代の人たちがこのまちを選び始め、まちの風景に少しずつ変化が生まれています。

もともと河内長野は、地盤が固く、犯罪が少ない、安全・安心なまちです。過去から大きな災害にあうこともなく、多くの文化財が今に受け継がれています。大阪の都心から30分、山の緑やきれいな川に恵まれ、かわずながく続く「ふだんの暮らし」が、ここにはあります。

そんなまちの魅力を活かせば、子どもたちがのびのび成長できる環境も、自分らしい暮らしの楽しみ方も、年齢にかかわらず新しいことに挑戦するチャンスも、もっともっと広がっていくはずです。

「このまちの、ここが好き。」

「次は、こんなことをやってみたい。」

そんな一人ひとりの思いが、河内長野のこれからをつくる力になります。

みんなの「好き。」を持ち寄って、千年都市の未来を、ゆたかな彩りで満たしていきましょう。

かわらずなが〜く
ふだんのしあわせ

